二十六回蒼天句会　今月の一句

令和六年十二月十二日　兼題：枯芒、又は自由

風止みてより極月の星の数　公子
山茶花や日々の命の咲いて散る　婦紗子
年惜しむ彼方の星に俊太郎　賢一
枯すすき風と交える古戦場　繁一
炎立つごとし夕日の枯すすき　孝志
枯れ薄夢を観た日も我にあり　ムツミ
白菜干す塩梅という言葉好き　信江
金管に冬日をのせてジャズライブ　静江
地震跡に戻る白鳥能登の空　鎮夫
銀杏落葉の葉音きわやか並木道　隆彦
遠山に白き波あり枯薄　隆男
深川に閻魔大王座し小春　重子
小春日や背中温める野の昼餉　紹子
留守多き隣家の庭の石蕗の花　久恵